

木耐協 技術通信

2004年
6月号

技術的なご質問・ご相談などは・・・

- 組合員専用ホームページ「安齋先生への質問コーナー」よりお気軽にお問い合わせ下さい
 - 直接お電話でのご相談の場合は、木耐協事務局まで。
- 毎週金曜日 9:00～18:00 TEL:048-224-8316

監修：日本木造住宅耐震補強事業者協同組合 技術顧問 安齋正弘 TEL：03-5549-2115 FAX：03-5549-2125



先月の末、3人娘の最後の1人を送り出した。親の役目がようやく済んだ。(ホッ^0^)
ところで先月号にミスプリを見つけた！ 3つの図の真ん中の説明文、()内の $\alpha=1$ が正しい数値です。忘れずに訂正しておいて下さい。

床倍率の話もそろそろ終わりですが、倍率を求める床が1種類なら話は簡単ですが2種類以上に分けられている場合はどうなるの？

そうです。下階の耐力壁に挟まれた上階床は必ずしも同一の床仕様とは限りません。洋室・和室、或いは床レベルの違いによる別仕様の床などが存在していることが有り得ますね。つまり下図のようなケースもままあるという訳です。このような場合はどうするか？

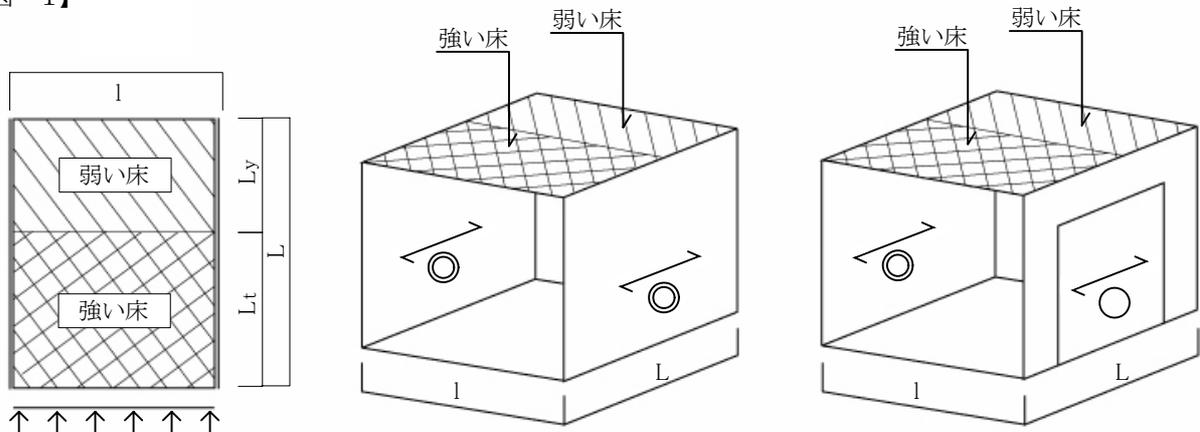
【図-1】検討方向に複数の異なった床仕様がある場合。

【図-2】検討方向に平行して異なった床仕様に分けられる場合。

が考えられますね。【図-2】の場合は簡単で、強い床と弱い床の2通りのうち、弱い床が必要床倍率以上であればOKです。では【図-1】の場合はどうか？ここで出てくるのが「平均存在床倍率」という用語です。つまり強い床と弱い床の平均値で必要床倍率と比較しようという訳です。これを式で表せば次のようになります。

$$\text{平均存在床倍率} = (\text{強い床の倍率} \times L_t + \text{弱い床の倍率} \times L_y) \div \text{壁線方向最短距離}L$$

【図-1】



【図-2】

